



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 23 年 10 月 16 日(日)
上町自主防災訓練 編

10月16日(日)、「上町自治会自主防災訓練」が実施されました。私たちの自主防災訓練は、今回で7回目となります。過去6回の取り組みのなかで、「上町方式」とでも呼べる、自主防災訓練のひとつのパターンができあがりつつあると感じます。この「上町方式」の特色に触れながら、今年の自主防災訓練について報告したいと思います。

その特色の一つは、災害が起きた直後の、住民同士による「安否確認」の体制をきめ細かく整えて、毎年、ほぼ全世帯の参加のもとで、安否確認訓練が行われているということです(残念ながら、この部分は新聞やテレビでほとんど取り上げられません)。

災害直後の安否確認のために、隣近所の5~10世帯でブロックをつくり(全部で8ブロック)、各ブロックごとに防災責任者を充て、その下に「情報伝達員」を置き、その伝達員が、受け持つ世帯の安否を確認して、責任者に報告をするという仕組みを作り、ブロックごとに、一次避難場所(近くの空き地・駐車場・店舗前など「先ず集まれる場所」)を定めておくというシステムを整えています。

※この安否確認のシステムは、地域の高齢化が進み、高齢者世帯・独り暮らし世帯が増えるなかで、「実際に災害が起きたときには、公的機関の指示や救助の前に、先ず近所同士で集まり、安否を確認して、自分たちで助け合うことが必要ではないか」という能登自治会長のよびかけとリーダーシップによって作られ、自主防災訓練のスタート当初から実施されているものです。

なお、このシステムを、災害の時に本当に使えるものにするためには、常に点検をしておく必要があります。そのために、毎年の防災訓練の前に、必ず準備会が開かれますが、その会で、各ブロック内の状況の変化を把握し、組織図を作り直す作業が行われます。今年も、防災訓練本番の約4週間前、9月20日に準備会が行われました。

例年、この「安否確認訓練」から、私たちの防災訓練は始まります。10月16日(日)、訓練があることを知らせる広報車が町内を巡回した後、午前9時を期して、各ブロック一斉に訓練が開始され、各ブロックごとに所属の世帯から人が出て、一次避難場所に集結しました。出席のない世帯には情報伝達員が出向いてその安否を確認して、その結果をブロック長(防災責任者)が集約して訓練を終了し、ブロック長は直ちに、本部(サンピノに設置)へ赴いて防災役員へ報告するという



安否確認訓練では声をかけあってサンピノに避難してきます。一緒に取材カメラも来ます。到着したら責任者に状況報告をします。



大津波の襲来や大水害を想定し、町内で最も高い建物であるサンピノの非常階段の位置を確認しました。



ふだん使っていないものはイザという時に使えないという助言に基づいてすみれ会が購入、植栽で活用しているアルミ製リヤカー。使い慣れた女性たちが組み立て実演をしたあと、みんなでやってみます。



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

手順によって、自治会全体の安否確認は訓練開始から約10分で完了しました。

今回の集約結果は、自治会総世帯 60 の内、安否確認ができた世帯 53、確認できなかった世帯7ということでした。

安否確認訓練終了後、サンピノに集まった自治会員の皆さんによって、例年と同じく、災害時に役立つ、実用的な知識や技術を学ぶ、ミニ研修が行われました。今年は「自治会所有のアルミ製リヤカーの組み立て」「車いす(サンピノに配置)のセットと操作」「懐中電灯を使っての SOS 信号の送り方」などを学び、ついで、町内で最も背の高い建物、そして災害の時には頼りになるであろうサンピノの、非常階段の場所(2ヶ所)を確認しました。

午前10時から、この日の防災訓練の第2部ともいえる「防災セミナー」が、サンピノの2階で開かれました。この「防災セミナー」には、「上町方式」のもう一つの大きな特色があるのではないかと思います。

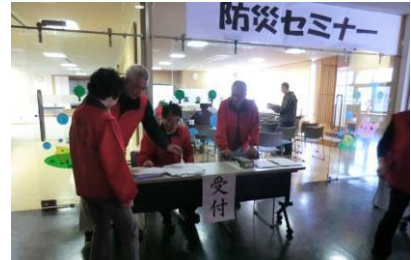
それは、この研修の場が、発足の当初より、地域防災に関わる多方面の方々から、講師・パネリストとして参加していただいていること、また、上町自治会員だけでなく、他の自治会の方々にも参加を呼びかけており、「開かれた研修の場」として設定され、毎回、多くの自治会長さん・民生委員の方々などの参加を得て開催されているということです。

セミナーは、「地域住民の防災力を、楽しみながら高めることが大切」と説かれる、渡辺千明先生(木高研准教授)のご助言を受けながら続けられているのですが、回を重ねるにつれて私たちのこの試みが、住民の立場から地域の防災を考えるための、小さいながらも一つの「発信の場」となりつつあるのではないかと感じています。

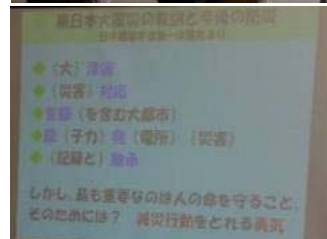
さて、今年の防災セミナーは上町自治会員 23 名、他自治会からは 20 名参加の下、「東日本大震災から学ぶ」をテーマに開催されました。今回は、二つの講話と参加者全員による避難食づくりを主な内容として研修が進められました。

最初の講話で、水田俊彦先生(秋田大学地域創世センター准教授・テーマ「東日本大震災における秋田県の防災について」)は、被災地(石巻市・気仙沼市)へ調査に入って感じたことは、津波から住民を守る堤防などハード面の設備が立派であっても完全に人命を救えなかった。私たちに求められているものは、各人が災害から命を守るための判断力と行動を起こす勇気を持つことである、と述べられました。

講話後、上町すみれ会の指導の下に参加者全員でハイゼックスシートを使う避難食づくりに取り組み、引き続いて今



防災セミナーも自治会行事のひとつとなり、受付もみなさん手馴れたものです。



毎年のようにおいで下さる水田先生のご講話では、逃げる勇気の大切さをみな再確認しました。



水害時の避難者から学んだ充実の持ち出し袋。両手が使え、置けば懐中電灯よりも活動度が広がるLEDランプなど、防災グッズ自慢は地域自らの防災力をあげる素晴らしい企画でした。



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

回初めての企画、身近な防災グッズ自慢が行われ、自治会員有志が持ち寄った防災グッズが披露され、出品者の自慢（説明）に、「ナルホド！」「どう使うの？」「ナンボした？」と質問も相次ぎ、大いに盛り上がりました。9月の準備会から生まれた好企画でした。

その後、「本当に大丈夫？わが家・わが町」をテーマとする渡辺千明先生（秋田県立大学木材高度加工研究所准教授）の講話を聴講しました。先生は、さまざまな災害が私たちの身の回りで必ず起こると予測して、「災害から見を守るためにアクションを起こすこと。自分たちでできることを続けること、そしてそれを周りに広げ、地域で災害に備えること」、「災害が起きた時、具体的にどう行動するかについて、イメージを描き、役立つ知識や技術を学ぶこと。そして、何よりも、防災訓練は楽しんで行うこと」を説かれました。

お二人の先生の講話は、私たちの自主防災訓練の今後のあり方にとって、非常に示唆に富むものでした。

講話終了後、できあがっていた避難食を全員で試食しながら、閉会行事に移り、他町内の自治会長さん達から感想を述べていただき、今年の自主防災訓練は終了しました。

心ならずも、長い報告になってしまいました。それは、この自主防災訓練も7回を数え、この辺で、私たちの防災訓練がどのような意味をもつのか、その特色や意義はどこにあるのかについて、考えてみる必要があるのではないかと思ったことによります。

また、東日本大震災の惨禍を目の当たりにして、私たちが大災害に直面した場合、いま私たちが行っているこれらの訓練が、実際に役立つものであるかどうかについても、点検を始めるべきではないかと考えたからでもあります。

3月11日の大震災発生からちょうど1週間の18日の夜、能登自治会長の呼びかけで自治会防災会議が開かれました。災害直後ともいうべき時期に、役員と各ブロック長が集まって会議をもてたことは、私たちのなかに災害に備える意識が深まっていることを示しており、それは防災訓練の積み重ねの成果であると考えて良いのではないかと思います。

また、この会議では、3月11日から12日の地震と停電に対して各人がどのような行動をとったか、隣近所はどうであったか、どんなことに困ったか、そのことにどう取り組んだかなどについて具体的に体験を出し合い、意見交換をしました。それは、今後の私たちの防災活動を改善し、充実させるための重要な機会であったことを申し添えて、終わりとします。

文：相澤 紘一



今年は例年の混ぜご飯のほか、東日本大震災時にも重宝したふりかけ等の市販品も使いました。



いつもの炊飯袋には、お米と水でご飯をつくるものと、ホットケーキミックスと水を使って蒸しパンをつくるものをやってみました。



非常食を作るのも食べるのも、町内外関係なく、初対面の人もそうでない人も、男性も女性もみなで協力します。こうした取り組みは、災害時に限らず、日ごろのまちづくりでも大切なことですね。